

大会名 Competition	第29回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-113	Year Month Day Time 2016 年 5 月 5 日 12 : 15
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
能代工	( 5 1st 28 12 2nd 23 16 3rd 22 15 4th 21 E P )	帝京長岡
48 ●		94 ○

主審:Referee  
加川 真 宮城  
副審:Umpire  
堀内 昌浩 宮城  
田中 直幸 秋田  
テーブル・オフィシャル:Table officials  
能代高

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	山田 柗人	CAP	2	0	1	0	5	4	×	神田 大輔	CAP	11	3	1	0	1
5	×	児玉 海渡		2	0	0	2	1	5	×	遠藤 健斗		6	0	2	2	1
6	/	長濱 宏治郎		10	1	3	1	3	6	/	高橋 凜太郎		6	0	3	0	0
7	/	熊谷 弥高		10	1	1	5	0	7	×	遠藤 善		7	1	1	2	0
8	×	山田 魁都		2	0	1	0	1	8	×	祝 俊成		2	0	1	0	2
9	/	石田 淳		2	0	0	2	0	9	/	川崎 竣平		4	1	0	1	1
10	/	阿久津 穰		0	0	0	0	0	10		本間 陸		-	-	-	-	0
11	/	児玉 凜斗		18	3	4	1	0	11	/	近藤 研吾		0	0	0	0	0
12	×	佐藤 侃		0	0	0	0	0	12	/	池田 大雅		2	0	1	0	2
13	/	齋藤 創		0	0	0	0	1	13	×	TIRERA TAHIROU		24	0	11	2	1
14	/	牧野 湧		0	0	0	0	1	14	/	BULA GULORIDA		27	0	12	3	3
15	×	新田 由直		2	0	1	0	3	15	/	平野 行真		5	0	2	1	2
16	/	小納 駿介		0	0	0	0	0	16		新保 圭介		-	-	-	-	0
17	/	守屋 壮次郎		0	0	0	0	0	17	/	多田 幹也		0	0	0	0	1
18		大日向 祐輝		-	-	-	-	0	18		佐野 翔太		-	-	-	-	0
コーチ		栄田 直宏						0	コーチ		柴田 勲						0
アコチ		杉沢 政						0	アコチ		早川 永幸						0
合 計				48	5	11	11	15	合 計				94	5	34	11	14

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q、両チームともにマンツーマン・ディフェンスでスタート。立ち上がり、帝京長岡は#13TIRERAのゴール下や#8祝の速攻で好スタートを切る。一方能代工は3Pやドライブで果敢に攻撃するも帝京長岡のディフェンスを崩せない。6:21帝京長岡の#13TIRERAがバスケットカウントを決め、0-8となったところで能代工はたまたまタイムアウトをとる。巻き返しを図りたい能代工は#11児玉のドライブで得点するもオフェンスのリズムを作れない。帝京長岡は#13TIRERAのゴール下や#4神田の3Pシュートも決まりだし勢いが止まらない。5-28の帝京長岡リードで終了。

2Q、なんとか食らいつきたい能代工は高さのある帝京長岡に#8山田#7熊谷が3Pシュートで得点を狙うが精度が上がらず苦しい展開。対する帝京長岡は#14BULAのインサイドやリバウンドでペイントエリアを支配し引き離す。能代工は残り時間3:22でタイムアウトをとり、ディフェンスのプレッシャーを強め#7熊谷#8山田がスティールからジャンプシュートを決めるが、17-51の帝京長岡リードで前半を折り返す。

3Q、意地を見せたい能代工は3Pシュートをメインに得点を狙うも無得点が続く。帝京長岡は#15平野の速攻や#9川崎の3Pシュートなどで確実に加点していく。6:10能代工はタイムアウトをとりフルコートで仕掛けるディフェンスに切り替え、スティールから#11児玉のドライブや3Pシュートで追いつくも33-73の帝京長岡リードで終了。

4Q、控えメンバーの帝京長岡に対しても能代工はリズムを作れず、#6長濱のシュートや#7熊谷の3Pが単発で決まるも得点は伸びない。帝京長岡はその後も#14BULAのインサイドやリバウンドからのシュートで試合をコントロールする。終盤、能代工は交代メンバーらが積極的にリングに向かうも得点に結びつかず、終始ペースを握り続けた帝京長岡が48-94で勝利した。